ユニバーサルデザイン

宮地泰造*

大矢富保**

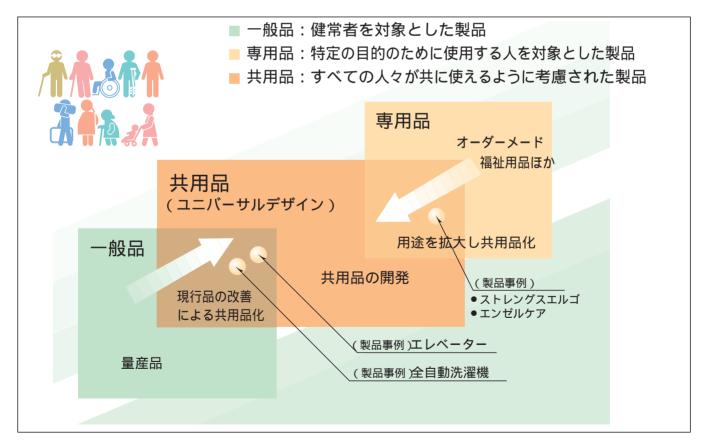
酒寄映子**

亜 旨

自然科学の発達や製造技術の高度化により、人間は、便利な道具を多く手にすることに成功してきた。道具の実現の初期段階では、自然科学の原理に立脚した機能指向型の道具が発明されて、人間を困難な作業から解放することを可能にしてきた。それに続いて道具の改良が行われて道具の完成度が高くなると、だれにでも使えること、だれにでも使いやすいことに関心が持たれるようになった。1974年には、利用における"障壁(バリヤ)の解消を目指すバリヤフリーデザインが国際障害者生活専門家会議で検討された。我々もバリヤフリーの研究を進めてきている。現在、少子高齢化社会に突入しつつあり、すべての障壁(バリヤ)の解消にとどまらず、共生の社会に向けて、すべての人に真の"生活のしやすさ、使いやすさ"を実現することが重要になっている。

本稿では、この実現に向けて、ユニバーサルデザインの概念を示し、生活環境とウエルネス関連製品のユニバーサルデザインの実践法を提示する。その中では、ユニバーサルデザインの目標である"共用品の開発 * 共生空間の実現"について述べ、ユニバーサルデザインのポイント、開発の取組姿勢を含めて提示する。また、生活関連製品である洗濯機やエレベーターのユニバーサルデザイン例も示している。

今後も、健常者だけでなく、高齢者や障害者も含めたすべての人々に住みやすい環境の提供がますます重要になると言える。この点からも、ユニバーサルデザインの研究がより幅広い製品や生活空間で行われることが期待されている。



開発の位置付け

一般品とは量産品のように健常者を対象にした製品,専用品とは障害者など特定の人のための製品で福祉用品などがこれに当たる。すべての人々が使えるように配慮された製品が,我々の目指す共用品すなわちユニバーサルデザインである。